

「余滴」にかえて：

雑誌「医療」に関するアンケート結果より

編集委員長 鈴木 紘一

本誌58巻7号の余滴のコーナーで触れたごとく、現在編集委員会で本誌の「あり方」についての議論が継続中です。一方では来年度の企画・発行との関係から、原稿収集予定として59巻4号位（平成17年4月発行予定）の準備が必要であり、そろそろ議論をとりまとめ、方向性を決定すべき時期とみなされます。「あり方」を考える上で、会員の皆様の意向は最も重要であり、全国の皆様にお願ひしましたアンケート調査の結果をこのたび取りまとめました。企画、発送、結果収集、分析を考えますと如何に短時間で事が行われたか、日頃の国立病院機構のネットワークの力を感じさせてくれます。特に、私の属する全国副院長会の先生方に手紙にて再依頼を行い、ありがたいことに多くのご報告をいただきました。副院長会の意義に疑問視する向きもあるかと存じますが、やはり顔の見えるネットワークの大切さを感じさせてくれたところです。例年8月は編集会議も休む習慣となっておりましたが、本年は猛暑の中8月19日、一部遠方の委員の方も出席下さり本アンケート調査の結果について熱心に討議をいたしました。

会員数に比し、回収率は極めて低いと考えられます。情報洪水の波間にある現在、雑誌類の存在意義については多くの意見がありますが、本誌に関するアンケート調査結果から伺える事として、声なき声のごとき建設的な意見も少なくなく、これらを参考として編集会議の場で討議されました（この際、本誌の発行について、編集会議だけで決めることは、国立医療学会機関誌という立場からは出過ぎた議論との見方もありますが、今後の発行状況にからむところでもあり、次回理事評議委員会に提出できる内案を作っておかなければならないという事情によります）。

巻頭で紹介させていただきました「余滴」の項で、「医療」発行に関するさしせまった問題として、以下の4つの方向性をしめました。

- 1) 現在の内容の大幅な見直しを計りつつ、可能な限り発行を継続する。
- 2) 学術誌としての性格に加え、情報誌としての性格も有することにより、会員の便宜を図る方向で会員数を増やす。
- 3) 予算に応じ、発行頻度を減らす、月刊から隔月発行あるいは旬刊にする。

4) 大多数の施設が独立法人となった今、戦後の医療の根幹を支えた国立医療体制の終焉とともに、本誌の役割も終わったという観点から休刊とする。

今回のアンケートからの建設的ご意見、あるいは従来から、国立以外の施設の方からの、「医療」ならではの内容の文献請求、特に特集については、ネットワークのそれぞれの機能より、かなりハイクオリティーのものが出来ること（一切、原稿料を支払っていない）、医師のみでなく、最近の例としてクロイツフェルド・ヤコブ病の看護特集など外部のケアの側からも非常に有用であったことなどを耳にしました。かぎられた少数意見ともみられますが、今後の創意・工夫如何によっては、国立病院機構の臨床研究発表の場として存在意義のあるものとの認識にいたり、編集委員会としては今後も継続して発行すべきであり、具体的な運用方法については、1)、2)、3)の方向で検討を進めるべきという結論にいたりました。

しかし、今後の発行継続には下記のごとき諸条件の整備が必要と考えられます。

1. 「医療」への投稿は、医師・薬剤師以外の全ての職種に門戸を広げてきたところですが、英文抄録を求める等の投稿規定の厳格さが狭き門になっていたと考えられます。現在、規定変更の目玉として、英文表記は総説、原著、症例報告のみに限定する方向で検討中です。
2. 政策医療ネットワークを中心とした種々の報告、看護、検査、医事すべての職種から自由な研究発表の場に加え、タイムリーな情報提供、その他、内容についてはしばらくは読者のニードを踏まえて、試行錯誤が続く可能性があります。
3. 編集室機能強化

従来の編集室作業は東京医療センターの文献情報センター機能の協力のもとに運営されてきたところですが、独法化後のパート職員の問題を含め、現在、機能の強化をいかにするかに腐心しております。

皆様からいただきましたアンケート調査結果の詳細は図表を参照していただくこととし、このたびは結果を基にした議論の推移を報告させていただきました。より多くの会員に満足いただけるような企画および内容の充実をはかる所存であります。調査にご協力いただきました皆様に感謝申し上げますと同時に、今後も忌憚のないご意見をお待ち申し上げます。

平成16年9月29日

ご報告いただいた施設（ブロック別）・役職

※所属施設

・国立高度専門医療センター	16
・ハンセン病療養所	9
・国立病院機構 北海道・東北ブロック	10
関東・信越ブロック	37
東海・北陸ブロック	16
近畿ブロック	9
中国・四国ブロック	18
九州ブロック	21
その他	6
計	142(名)

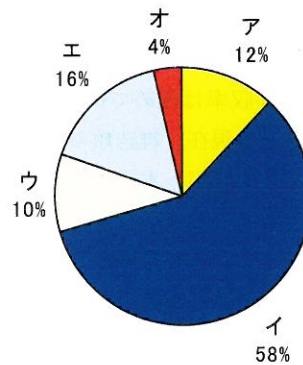
※役職

・施設長(総長、院長等)	16
・副院長	43
・診療部長	3
・臨床研究部長	2
・医師(医長)	9
・医師	4
・放射線技師長(放射線治療部長)	2
・医務課長	1
・副薬剤部長	1
・薬剤科主任	1
・不明	60
計	142(名)

1. 「医療」の読み方で、当てはまるものはどれか

- ア. 毎号目を通す
- イ. 目次を見て興味を持ったところだけ読む
- ウ. 業務上必要になった時に読む
- エ. あまり読まない
- オ. 全然読まない

「医療」の読み方



2. 1の設問でアまたはイと答えた方にお聞きします。「医療」の記事の中で、一番最初に読むもの(a)、必ず読んでいるもの(b)を選択してください(複数回答可)

	(a)	(b)
ア. 特集	32	13
イ. 総説	39	15
ウ. 論説	10	7
エ. 展望	0	3
オ. 原著	19	11
カ. 報告	2	1
キ. 総合医学会報告(シンポジウム)	5	8
ク. 共同研究班報告	4	7
ケ. 資料	1	3
コ. 図説	1	6
サ. 余滴	6	14
シ. 無回答	47	74
ス. 特になし	2	7
セ. 冒頭から順に	1	0
ソ. 自分の関連分野のみ	0	1
	(名)	(名)

3. この数年掲載の「医療」の特集記事の中で、参考になったのはどの記事ですか？
(複数回答可)

ア. 小児救急医療 (56巻1号)	24
イ. 神経筋疾患における人工呼吸器治療のリスクマネジメント (56巻5巻)	15
ウ. 適正な医療における一般名処方と後発医薬品 (56巻8号)	20
エ. 加齢医学の現状と展望 (56巻10号)	16
オ. クロイツフェルトヤコブ病の看護 (56号11号)	15
カ. 国立医療システムと治験・臨床試験 (57巻1号)	33
キ. がんの遺伝子治療の現状 (57巻6号)	14
ク. 政策医療に基づく神経ネットワークの機能的構築 (57巻8号)	10
ケ. 透析医療-医療政策に期待するもの (前編) (57巻11号)	3
コ. 透析医療-医療政策に期待するもの (後編) (57巻12号)	3
サ. SARS (57巻3号)	55
シ. 特になし	11
ス. 無回答	15

(名)

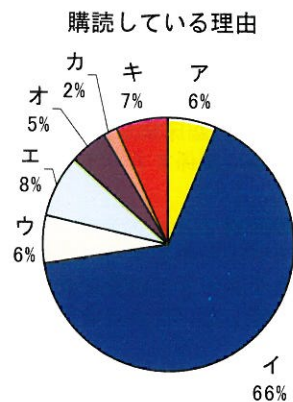
4. この数年掲載の「医療」図説シリーズの中で、参考になったのはどのシリーズですか？
(複数回答可)

ア. 歩行分析シリーズ (49巻)	4
イ. 神経学シリーズ (50巻)	18
ウ. 肺気腫シリーズ (51巻)	13
エ. 感染症シリーズ (52巻)	20
オ. 腎疾患シリーズ (53巻)	3
カ. 病院の情報化シリーズ (54巻)	23
キ. 神経ネットワークシリーズ (55巻)	11
ク. 医用画像シリーズ (56巻)	19
ケ. 脳血管障害の最先端医療シリーズ (57巻)	19
コ. 感染症シリーズ (58巻)	34
サ. 特になし	13
シ. 無回答	36

(名)

5. 現在、購読している理由

- ア. 興味がある
- イ. 国立医療施設なので
- ウ. 何となく
- エ. 過去に投稿したので
- オ. これから投稿したいので
- カ. 無回答
- キ. その他
 - ・ 給料から定期的に購読料を引かれているため
着任したとき本人の意思確認もなく、自動的に入会・購読の形となっていた
 - ・ 無理に購入させられている
 - ・ 契約していない
 - ・ 副院長なので今後に期待して
 - ・ 立場上
 - ・ 配布されるから



6. 論文掲載を主とした学術雑誌としての体裁について

- ア. このままでよい
- イ. 英文抄録・図表の英文表記の割愛
- ウ. 論文調でない自由な研究発表形式でも可
- エ. 情報誌化したほうがよい
- オ. その他
 - ・学術的な質の向上
 - ・各職種、国立に勤務して「医療」を購読すれば必要最低限（決して最高ではないこと）専門資格がとれる（などの工夫が必要）
 - ・必要ないと思う
 - ・ウとしても英文抄録は必要
 - ・Pub med にのらないと意味がない
 - ・学術雑誌としての価値が低いと思う
 - ・政策医療をもっと attractive に取り上げるべき
 - ・一冊まるごと特集化して専門家数名への投稿依頼と、特集内容への公募論文を掲載するとよいのではないか

カ. 無回答

7. 塩田賞について

- ア. 知っている
- イ. 受賞したことがある
- ウ. 受賞したいと思っている
- エ. あまり興味がない
- オ. 廃止してもよい
- カ. 知らない
- キ. 無回答

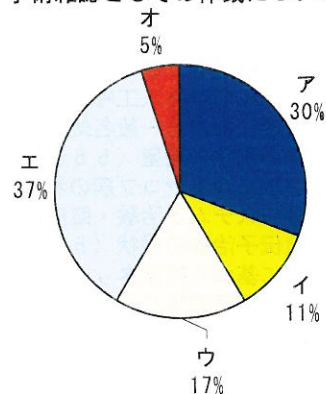
8. 今後の「医療」発行について

- ア. 従来通りの発行を希望する
- イ. 隔月発行や旬刊でもよい
- ウ. 休刊・廃刊にする
- エ. 無回答
- オ. その他
 - ・デジタル化
 - ・現在のスタイルの雑誌のままなら廃刊してもよいと思う
 - ・国立医療としての部分と民間医療と競争する部分とを明確にして情報誌化してほしい
 - ・別冊の発行（臨床病院群にとって役立つ）
 - ・政策医療に関するガイドラインの出版を行う

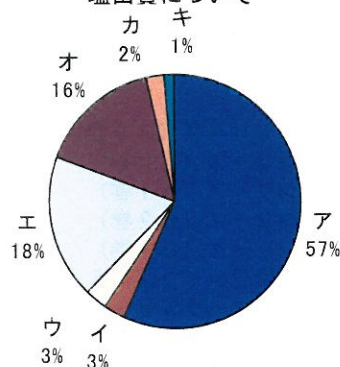
9. 会員としての希望

- ア. 従来通り購読を希望する（会員を継続する）
- イ. 発行回数を減らして会費を安くする
- ウ. 購読は希望しないが会員を継続する
- エ. 退会する
- オ. その他
 - ・メリットを作らなければ退会する
 - ・考えないようにしている
 - ・会員でない
 - ・国立医療学会自体、学会としての存在価値がどれほどあるかわからない（活動が不明）
 - ・内容の一考

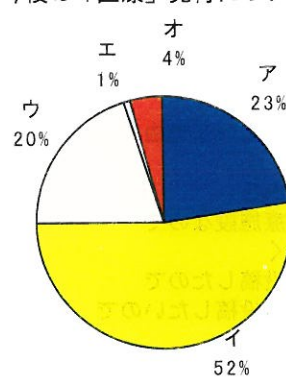
学術雑誌としての体裁について



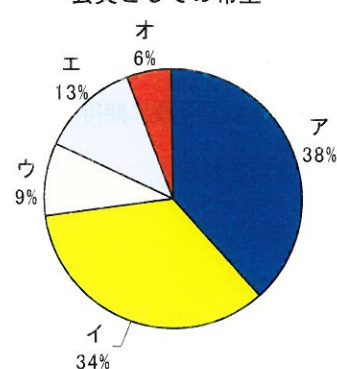
塩田賞について



今後の「医療」発行について

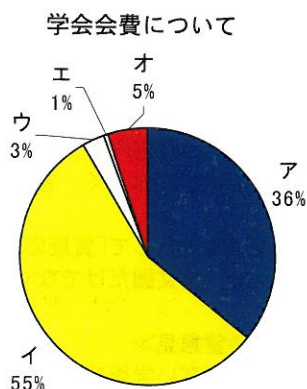


会員としての希望



10. 国立医療学会会費（年間7,800円）について

- ア. 高い
- イ. 普通
- ウ. 安い
- エ. 無回答
- オ. その他
 - ・ 専門医認定単位が取れるようにする
 - ・ 廃止してほしい
 - ・ 職種によって額は変わってよい
 - ・ 臨床の専門単位習得に貢献すれば会費は安い



11. その他本誌についてご要望・ご意見がありましたらお寄せください

《発行継続希望意見》

- ・ 歴史ある雑誌であり、国立病院機構の医学雑誌として貴重であり、今後認定医、専門医になるにも論文発表が必要となる。医師以外の職種の発表も多くしたい。症例報告も興味ある。学術学会が支持する以上は継続すべきと思う
- ・ 病院機構には全国各地に大変優秀な医療スタッフが勤務している（他の病院に比較しても全く遜色がない）。それぞれの分野の update な話題や課題について制限のない自由な研究発表なり情報を提供してほしい
- ・ 医療に関わる全ての職種が参加できる発表の場というのは貴重なので、続けた方がいいと思う
- ・ 特集があり、他科のことを知る上で参考になる
- ・ 総合医学会の機関誌として、国立病院及び（独）国立病院機構の活動の一環として重要である。本部のサポート、会員制の確立とともに会費を徴収し、総合医学会を継続してゆくことにより、本誌の発刊は必然のものとなる
- ・ 各施設での業務のかたわら、地道に研究を続けている国立の職員にとって、多少専門性という面では見劣りするとはいえ、「医療」の果たしてきた役割は大変大きいと思う。形態が多少変わるの仕方ないにしろ、ぜひ存続を望む
- ・ 機構の方針、連絡などにもっと利用したらどうか
- ・ 原著、症例報告などをもっと増やすように努力が必要
- ・ 特に政策医療ネットワークに関する記事は必ず載せる
- ・ 診療ガイドラインを掲載して、実地診療の資料となることも考慮してはいかかか
- ・ 好評のシリーズは単行本にするなど著者のやる気をおこさせる
- ・ 国療総合医学会の今後のあり方と連動してゆく問題であるから、あまり早急に結論を出すことは慎重にすべきと思う
- ・ 専門分化している中で、他でもとりあげるよさと限界を明確にすれば、concept がはっきりすると思う
- ・ オンライン化をはかるべき
- ・ “医療”と“医療の広場”を一つにして統合してほしい。“NHO だより”だけでは全国的組織としては不十分な気がする
- ・ 情報誌化というか、コメディカルも含めて興味を持って読めるような内容にしていければと考える
- ・ 「医療」の火は、細々ながらでも続けてほしいと思う
- ・ 政策医療の観点に特化したものに、さらに性格づけをはっきりされたい
- ・ 医師は専門医等の認定が必要になっており、国立医療学会に入会して勤務していれば、単位習得または専門医への近道になるように計画してほしい。そうすれば、地方の国立病院の医師標準数不足が解消する一助と考えられる
- ・ 会員数をもっと増やすこと。ドクターのみならずナース他パラメディカル部門の掲載もいいと思う。その為には会費の調整が必要
- ・ 医師・コメディカルも専門医・専門職資格が給料に手当等で反映されるようになってきた。専門医・専門職継続のため自主トレーニング・単位取得に必要な知識を各職種毎に医療別冊として発行して全職種のレベル維持と利便をはかる
- ・ 質の高い論文が載れば自ずと読むし投稿数も増えると思う。さしあたって質を高めるためには、多数存在する優秀スタッフに元題を提案して投稿を強く依頼すればどうか
- ・ デジタル化
- ・ いわゆる学会としての学会費は決して高くないが、この学会はどちらかといえば国病国療施設勤務者の職種を越えた情報交換の場と思われる。そのような意味で意義はあると思う。年一回の総合医学会は、医師関連ではシンポジウムなどを主体とし、演題は comedical なものを主体としたものがよいと思う

- ・機構全職員のための情報、および学術誌とする。会費を払ってでも、会員となり読みたくなるものとする。より多くの読者、会員を増やすことのできる雑誌とする。補助、買い上げは頼らない方向とする
- ・医師は原著は専門誌に投稿するので医師からは重要視されない。コメディカル部門のよい原稿は、当誌に投稿しようと思う。コメディカルと医師が共同で論文を作成したものを発表する場となった方がよい。従って、国立医療施設の各部門の人に投稿資格を与えるべきである
- ・疾患の政策中心ではなく、基礎的論説、例えば遺伝子なら環境要因による発生差や発生年齢についても触れてほしい
- ・総論や原著等に対して「質疑応答」の項目があってもよいのではないか
- ・特集の中で、論文調だけでなく現在のトピックや歴史などについて座談会を希望

《発行非継続希望意見》

- ・他にレベルの高い学術雑誌がいっぱいあるので廃刊にしてほしい
- ・本誌でなければならぬ理由がはっきりしない。また、読者の範囲が狭い。目的をはっきりさせないと、もっといい雑誌はたくさんある
- ・専門雑誌が多数ある現代、そろそろ廃止でよいと思う。必要としている人間は極めて少ないと思う
- ・編集余滴（58巻7号）に述べられている今後の方向の中で、4）に賛成する。今後、会員増は期待できない。特に医師。情報誌化はNHOだよりでカバーできる
- ・質の高い、投稿したくなる学会誌をめざすべき。現在では、自分の研究を発表する気にならない
- ・本誌は必要ないと思う。国立、国立をいう意味はない
- ・なかなか読む時間がない
- ・アクティブな「学術誌」のイメージはない。総合学会の応募用紙を得るために仕方なく病院でとっていた、と認識している
- ・学術雑誌としてのレベルの問題があり、また購読者の問題もあって投稿する motivation がわからない。「掲載されやすいからだした」という話も聞いたことがある。時間と労力をかけた論文は有意義に受理してもらいたいと思うのは当然で、上記をクリアしなければ存在意義を問われることになると思う
- ・不必要だ。情報誌としてなら役に立つかも
- ・事務室も大変だろうから、休刊にしたらどうか

《その他》

- ・雑誌「医療」の改革よりも、「総合医学会」の簡素化をより強く希望する
- ・購読は他誌と同様任意とする
- ・年会費一万円でもよい
- ・学会の主体（団体）、雑誌の発行人を決定することから始まるのではないのでしょうか